

“街中の気になる樹”

山上 勝治（5期）

この度、以前に樹木の活力度調査を行った松倉川の桜並木に15年ぶりに足を運んでみました。松倉川は湯の川温泉街を通過して津軽海峡に流れ込む2級河川で上流には美しい渓谷があり沢登の名所としても知られる川です。現場は函館空港から車で5分ほどのところにあり、住宅地の横を流れる川の土手に設けられた約1.6kmの遊歩道の脇にヤエザクラを主とした桜が約400本植栽されています。

久々に現地を見て驚いたのは並木周辺の風景が大きく変わっていたことです。以前は、人も入り込めないような草がぼうぼうと生い茂る原野で資材置き場がある程度の人気の無い土地でしたが、その土地に巨大ショッピングモールが出来、道路整備、宅地化が進み新築の家が立ち並ぶ風景へと変わっていました。人どおりも増え歩道の利用者もかなり増えたように感じます。

さて、桜のほうはどんな成長をしているのでしょうか。以前の調査では、川沿いを吹き抜ける風の影響で樹木の上半分が枯れている樹が目立っていました。その痕跡は今でもありますが、調査後15年くらいの中にヒコバエが枯れた主幹に変わって成長を続け樹形を形成し始めていました。全体的には樹体の大きさにばらつきがあり、枯れ枝、絡み枝などが目に付き管理状態には欲を言いたくなりますがそんな中、環境に適応し二次的成長を遂げている樹木には驚きを感じます。今後、並木としての価値を高めるには適切な維持管理が不可欠になるでしょう。植栽後の樹木の生長を見届けてゆくのは当然なことです。その間に病気や怪我に犯されているものを見つけたら適切な処置を行い、長期間放置すべきではありません。

公園樹・街路樹を例にとっても、私たちの身の回りには保護・治療を必要としている樹木がたくさんあります。そのまま放置され最終的に伐採し植替えとなるケースが多いのも事実です。このような場合哀れな姿を長期間晒すことになるわけですが、まずは早めに点検し保護・治療を行い、経過をみて伐採・植替えの見極めをするのが適切と考えます。公共性のある公園樹・街路樹などは、まず地域住民が声を上げる事が何より必要です。異常を見つけたら情報を持ち寄り専門的な知識を交えながら改善を進めることが地域の樹木・景観の質を向上させ安全かつ快適な生活空間を形成することになると考えます。



手入れ不足で萌芽が叢生するエゾヤマザクラ